



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—ダウ平均や S&P500 は小幅ながら史上最高値更新—

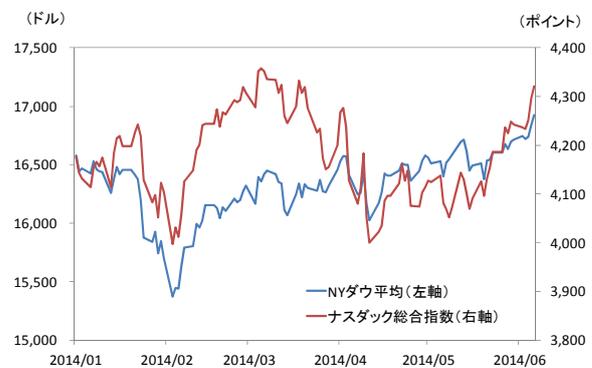
	前週終値	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均 (ドル)	16,717.17	16,743.63	16,722.34	16,737.53	16,836.11	16,924.28	+207.11	+1.24%
騰落幅		+26.46	-21.29	+15.19	+98.58	+88.17		
S&P500 (ポイント)	1,923.57	1,924.97	1,924.24	1,927.88	1,940.46	1,949.44	+25.87	+1.34%
騰落幅		+1.40	-0.73	+3.64	+12.58	+8.98		
ナスダック総合指数 (ポイント)	4,242.62	4,237.20	4,234.08	4,251.64	4,296.23	4,321.40	+78.78	+1.86%
騰落幅		-5.42	-3.12	+17.56	+44.59	+25.17		

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場は週間で1%強上昇する堅調推移となりました。ISM 景況感指数や雇用統計などの重要な経済指標がいずれも好内容だったことで、米国経済の強さが確認され、株式市場は上昇基調を強めました。

一部モメンタム株の急落により3月以降調整していたナスダック総合指数も足元は上昇しており、3月の高値を同水準まで回復しています。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



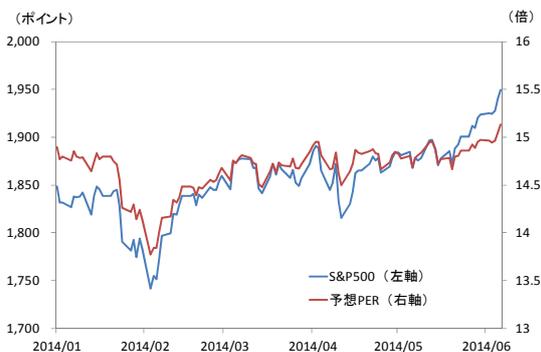
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	15.1	3.0	2.3%
S&P500	16.5	2.7	2.0%
ナスダック総合指数	21.2	3.8	1.2%

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2014年6月6日時点)

S&P500と予想PERの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

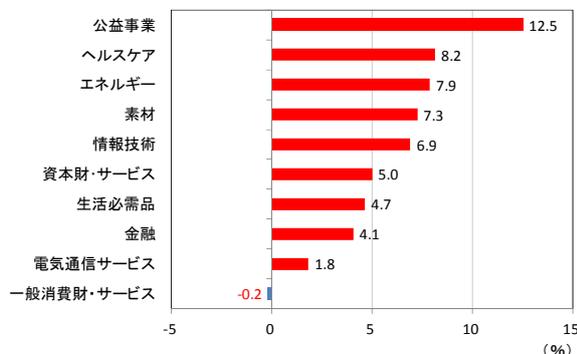
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

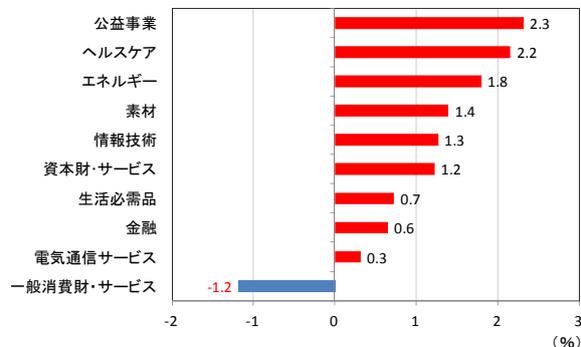
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (6/2-6/6)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
CAT	キャタピラー	5.8
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	4.0
AXP	アメリカン・エクスプレス	3.7
INTC	インテル	3.1
JPM	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	2.5
UTX	ユナイテッド・テクノロジーズ	2.3
BA	ボーイング	2.2
JNJ	ジョンソン・エンド・ジョンソン	1.7
MMM	3M	1.5
GE	ゼネラル・エレクトリック	1.5

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング (6/2-6/6)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
T	AT&T	-1.3
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	-1.1
PG	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	-0.9
NKE	ナイキ	-0.9
V	Visa	-0.9
PFE	ファイザー	-0.7

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

2-4 月期の機械の世界販売の減少ペースが加速していると報じられ、5月中旬以降下落が続いていたキャタピラー (CAT) が反発しました。その他ゴールドマン・サックス (GS) やアメリカン・エクスプレス (AXP)、JP モルガン (JPM) など金融関連株の上昇が目立ちました。

<下落>

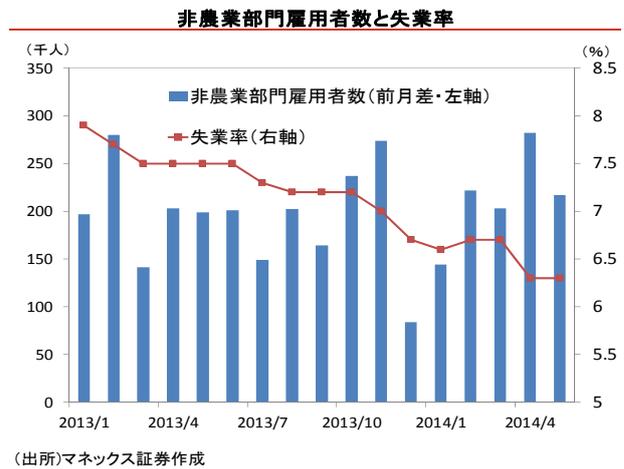
AT&T (T) とベライゾン (VZ) の通信大手 2 社がいずれも冴えない値動きとなりました。AT&T によるディレク TV (DTV) の買収合意や、ソフトバンク傘下のスプリント (S) が T モバイル US (TMUS) の買収で合意に至ったと報じられるなど、通信業界の再編に向けた報道が相次いでいることで、買収金額の正当性や監督機関が買収を許可するかなど、一時的な不透明感が増していることが嫌気されたと考えられます。

先週発表された主な経済指標

非農業部門雇用者数（前月差） 5月 +21.7万人 市場予想 +21.5万人 前月 +28.2万人

6日に雇用統計が発表となり、非農業部門雇用者数は前月から21.7万人の増加と労働市場の堅調な改善の目安とされる20万人を上回りました。前月からは伸びが鈍ったものの、前月は寒波による落ち込みからの反動増という側面がありややできすぎだったため、今月の減速は市場の想定通りといった内容です。

労働市場の堅調な改善が続いていることが改めて確認されたことをマーケットは好感し、ダウ平均はS&P500は史上最高値を更新しました。



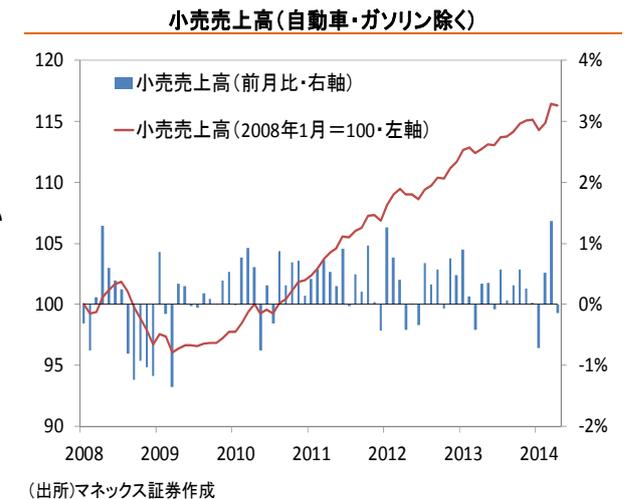
今後発表される主な経済指標

6月12日 小売売上高（前月比） 5月 市場予想 +0.5% 前月 +0.1%

12日に小売売上高が発表されます。デパートやスーパー等の小売・サービス業の月次売上高を集計した指標で、米国のGDPの約7割を占める個人消費の動向を確認する指標として重要視されています。

米国を襲った寒波の影響で12月から1月にかけて一時的に落ち込んだものの、2月以降は回復基調にあり、5月分も堅調な推移が予測されています。

小売売上高は総合指数のほか、単月でのブレが大きい自動車・ガソリンを除いた指数についても重要視されています。



マーケットビュー

先週ダウ平均や S&P500 は史上最高値を連日で更新しました。ISM 景況指数や雇用統計といった米国の経済指標が堅調だったことに加えて、欧州中央銀行（ECB）による金融緩和政策の発表を受けて、欧州の景気浮揚が米国景気の押し上げにもつながるといった期待感が強まりました。

直近まで発表された米国の経済指標は堅調な内容が目立っています。非農業部門雇用者数が労働市場の順調な改善の目安とされる 20 万人を 4 ヶ月連続で上回ったのは約 15 年ぶり。企業サイドから見た景況感を示す ISM 製造業景況感指数も 4 ヶ月連続で改善しています。株式市場の高値更新の背景にはこれらの経済指標が良好だったことで、「米国経済は夏以降堅調に推移し、企業業績の改善が加速する」という思惑が広がっていることがあります。ただ、ここからの上昇はバリュエーション面でやや割高感が出てくることもあって、短期的には利益確定売りが出やすい局面となると考えられます。

米国株式市場は今後も中期的に堅調に推移すると見込んでいます。ただ、前述したように現在の水準はバリュエーション面から利益確定売りが出やすいため、一段の上昇は 4-6 月期の企業業績が発表され、業績の改善加速が確認される 7 月以降になると考えています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本投資顧問業協会